

建学の精神とキリスト教 - 501 【第10回】

# キリスト教の歴史的展開



同志社大学 神学部教授  
良心学研究センター長  
小原 克博

1

## Overview

1. 世界史の中のキリスト教
2. 日本・東アジアにおけるキリスト教
3. 今回の課題

2

# 1

## 世界史の中のキリスト教

3

## 教義の形成（4-5世紀）

- ・ イエスの神性と人性
  - ・ カルケドン公会議（451）において、イエスは「**真の神であり、真の人**」とされた（両性説）。単性論者（神性を強調）は異端とされた。  
→ コプト教会、エチオピア教会、アルメニア教会
  - ・ エフェソス公会議（431、テオトコス論争）では、イエスの人性を強調したネストリウス派も異端とされた。  
→ アッシリア教会、景経
- ・ 三位一体
  - ・ 5世紀に、**父なる神、子なる神、聖霊なる神**は、独立した存在（位格、ペルソナ）でありながら一つの本質であるという三位一体論が確立した。
  - ・ 三位一体論は、ユダヤ教やイスラム教からは**唯一神信仰**からの逸脱と見られる。

4

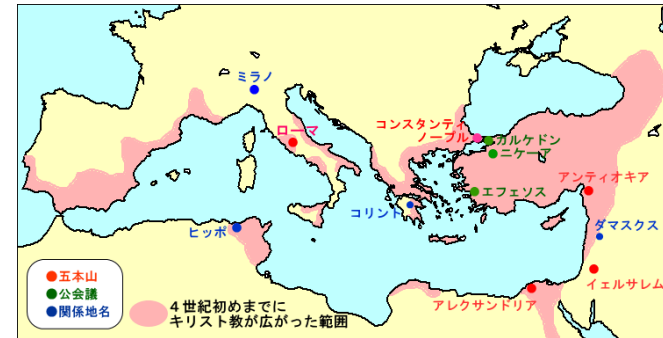
# コンスタンティヌス体制

- **絶対平和主義** (pacifism) から **正戦論** (just war) へ
- コンスタンティヌス体制 (313年、ミラノ勅令によりキリスト教を公認) 以降、絶対平和主義の考え方は、徐々に主流から傍流へと移行していく (392年、テオドシウス1世によりキリスト教は国教に)。

5

# 初期教会と5つの総主教座

- ローマ、コンスタンティノーブル、アレキサンドリア、アンティオキア、エルサレム
- 6世紀以降、ローマ教会が西方教会、コンスタンティノーブル教会が東方教会を代表することになる。



<http://www.y-history.net/appendix/wh0601-047.html>

6

# 多様な教会形成の歴史

## 西方キリスト教世界

ローマ・カトリック教会  
↓  
英国国教会 (聖公会)  
プロテスタント教会  
ルター派 (ルーテル) 教会  
改革派教会・長老派教会  
会衆派教会  
バプテスト教会  
メソジスト教会、等々

## 東方キリスト教世界

東方正教会  
コンスタンティノーブル総主教庁  
アレキサンドリア総主教庁  
エルサレム総主教庁  
ロシア正教会  
セルビア正教会  
ルーマニア正教会  
ギリシャ正教会  
日本正教会、等々

7

# 十字軍——イスラームとの衝突

- 1095~1270年、8回の遠征
- ウルバヌス二世のクレルモン会議での演説 (1095年) 「かくて互いの間に平和を保つことを約したおん身らは、東方の兄弟たち、神に背く呪われた種族の脅威にさらされている兄弟たちを、救う義務を負っているのである」。
- ウルバヌス二世による十字軍の呼びかけには、**異教徒**によって「**汚染**」された聖地を「**浄化**」しなければならない、という主張があった。また、人々の間には世界の終末が近い、という期待があった。

8

## 十字軍の影響史

- ・ 十字軍以降、イスラームはキリスト教にとって大きな脅威と見なされた。こうした考え方は、後の時代にまで形を変えて引き継がれ、今日のイスラム嫌悪感情の一部になっている。
- ・ ビン・ラディンからISに至るまで、イスラム過激派からは、アメリカ等の中東進出（湾岸戦争、イラク戦争）が「**十字軍**」と見なされ、それに対し「**ジハード**」が呼びかけられてきた。

9

## 十字軍と反ユダヤ主義

- ・ 十字軍の拡大は、ユダヤ人に対する暴力にもつながった。フランスやドイツの一部では、ユダヤ人に対する略奪が行われた。
- ・ エルサレムを支配していたムスリムが「遠い」異教徒であるのに対し、ユダヤ人は「近い」異教徒と見なされた。

10

## ルターによる宗教改革（1517）



ローマ・カトリック教会  
(ヴァチカン)

### 聖書のみ

教皇が出す諸文書ではなく聖書のみを基礎とする。

### 信仰のみ

カトリックが推奨する行い（たとえば免罪符の購入）によってではなく、信仰によってのみ、神の前で義とされる。

### 全信徒祭司

カトリックの階級制度に依存することなく、万人が神の前で平等に祈り、奉仕することができる。

11

## 教派の分裂

- ・ 三十年戦争を「宗教戦争」として単純化することはできないが、カトリックとプロテスタントの対立が背景にある（**教派对立**）。
- ・ プロテスタント内部における教派形成
- ・ ルター派（ルーテル）教会、改革派教会・長老派教会、会衆派教会、バプテスト教会、メソジスト教会、等々

12

## エキュメニカル運動

- ・ エキュメニカル運動（教会一致運動）
- ・ 1910年のエジンバラ世界宣教会議が起源
- ・ 世界教会協議会（World Council of Churches）
- ・ 1948年、オランダのアムステルダムで発足。ヨーロッパと北米を中心とする147の加盟教団から始まったが、今では、120以上の国から352の教団が加盟している。東方正教会は設立当初からのメンバーであるが、ローマ・カトリック教会は加盟していない。ただし、カトリックは様々な会議でオブザーバーとして参加し、共同の作業に加わっている。



13

## 一神教間の相互関係の変化

- ・ 第二バチカン公会議（1962-65年）
- ・ Nostra Aetate (In our time, 1965年)：キリスト教以外の宗教にも意義を認める。ユダヤ人、ムスリムとの対話。
- ・ 宗教間対話の展開（1970年代以降）
- ・ 9.11同時多発テロ（2001年）以降の時代
- ・ イスラームとの関係の悪化
- ・ 同志社大学 一神教学際研究センターの設立（2003年）



14

# 2

## 日本・東アジアにおけるキリスト教

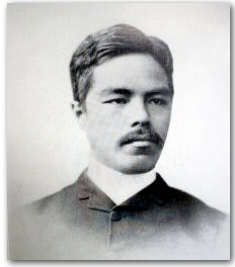
## 日本におけるキリスト教

- ・ カトリック
- ・ 1549年、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸。一時期、キリシタンが急増するが、その後、弾圧され、消滅。
- ・ 開国以降の変化
- ・ 1854年、開国とともに、各教派の宣教師の来日が始まる。
- ・ 1873年、禁制の高札を撤去して布教を黙認。
- ・ 1889年、大日本帝国憲法の発布。条件つきながら信教の自由が保障され、キリスト教各派の布教が本格化する。
- ・ 1890年、「教育勅語」発布。キリスト教（学校）に影響。

15

16

# 国家とキリスト教



内村 鑑三  
(札幌バンド出身)

不敬事件  
(1891年)

「教育と宗教」  
の衝突論争



井上 哲次郎

17

## 近代におけるキリスト教の影響

- ・ 知識人を中心に影響を与えた。
  - ・ 作家：北村透谷、国木田独步、島崎藤村、有島武郎、正宗白鳥
  - ・ 社会主義運動家：片山潜
- ・ 明治時代後半から大正時代にかけてプロテスタント系の社会運動が大きく発展した。
  - ・ 貧民救済に献身した救世軍の山室軍平
  - ・ 廃娼運動や足尾鉾毒問題に尽力した作家の木下尚江
- ・ 少年感化や監獄改良運動を推進した留岡幸助
- ・ キリスト教社会主義運動を指導した安部磯雄
- ・ 民本主義を提唱した吉野作造
- ・ 労働組合運動や生活協同組合を指導した賀川豊彦
- ・ 婦人運動の市川房枝
- ・ 救らい運動に献身した岩下壮一(カトリック)

19

## 『教育と宗教ノ衝突』（1893年）

上来論述せるが如く、耶蘇教の東洋の教に異なる要素は四種なり、第一、国家を主とせず、第二、忠孝を重んぜず、第三、重きを出世間に置いて世間を軽んず、第四、其博愛は墨子の兼愛の如く、無差別の愛なり、（125頁）

18

## 近代日本における宗教と文明

- ・ 宣教師の宗教観・文明観
  - ・ 宗教的救済は文明の形成に先行する。
- ・ 世俗的知識人の宗教観・文明観
  - ・ キリスト教を経由することなく文明に至ることは可能。
- ・ 国家神道を中心とした「反西洋」的な近代化の模索
  - ・ 大東亜共栄圏構想（1940～45年）
  - ・ 日本の伝統宗教もキリスト教も、ナショナリズムに巻き込まれ、戦争協力に加担していく。

20

## 東アジアにおけるキリスト教

- ・ 中国
  - ・ キリスト教の「本色化運動」（19世紀から20世紀初頭）
  - ・ 公認宗教：道教、仏教、イスラーム教、プロテスタント、カトリック
  - ・ 中国基督教三自愛国運動委員会、中国基督教協会（プロテスタント）、中国天主教愛国協会（カトリック）そして非公認の家庭教会
- ・ 朝鮮半島（韓半島）
  - ・ 反日抵抗運動（戦前）、軍事独裁政権への抵抗運動（戦後の韓国）の担い手としてのキリスト教
  - ・ 韓国：キリスト教徒が全人口の25～30%を占める。

## 3 今回の課題（600～800字）

- ・ 今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。
- ・ 『新島襄365』【11月1日】～【11月30日】を読み、もっとも関心をひかれた日付を《二つ》あげ、それぞれ、その理由を述べてください。